

熱性けいれん予防薬(ダイアップ坐薬) Q&A

●Q1: どんな時に使う薬ですか?

ダイアップ坐薬は、熱性けいれんの体質のある子どもさんが、けいれんの予防目的で熱がある時に使う薬です。ただし、熱性けいれんを経験した子どもさんの約70%はその後けいれんを繰り返さないため一般的には適応は以下のような場合に限られます。ダイアップ坐薬を効果的に、また安全に使うためにはルールや副反応を理解して使うことが大切です。

- (1) 過去に2回以上熱性けいれんを起こしたことがある。
- (2) 過去に15分以上長引く熱性けいれんを起こしたことがある。
- (3) その他の複数の理由（ご家族の希望、生まれつきの病気がある、など）

*初めての熱性けいれんで救急外来を受診した際に、帰宅後のけいれん再発予防の目的で当日分だけ予防薬を処方することがあります。

●Q2: どんな薬ですか?

ダイアップ坐薬の成分はジアゼパムという睡眠薬の一種です。同じ成分の粉薬を内服する方法もありますが、保管や使用の便利さから坐薬を用いることが一般的です。坐薬の大きさには3種類（4, 6, 10mg）ありますが、1回の使用量は体重で決めるため体重が増えた際には坐薬の大きさを変える必要があります。

★1回量の目安

- ～2歳, 8～12kg ⇒ 1回4mg
 - 2～5歳, 12～20kg ⇒ 1回6～8mg
 - 5歳～, 20kg～ ⇒ 1回10mg
- *体重によってはハサミで切って使うことがあります



4 mg

6 mg

10 mg

●Q3: どのように使えば良いのです?

★1回目⇒37.5℃を超える発熱に気づいた時点で使用します。

*熱性けいれんは発熱直後～24時間以内に起こることが多いので、予防には1回目を早めに使うことが大切です。かぜ症状がある時には体温をこまめに計って下さい。

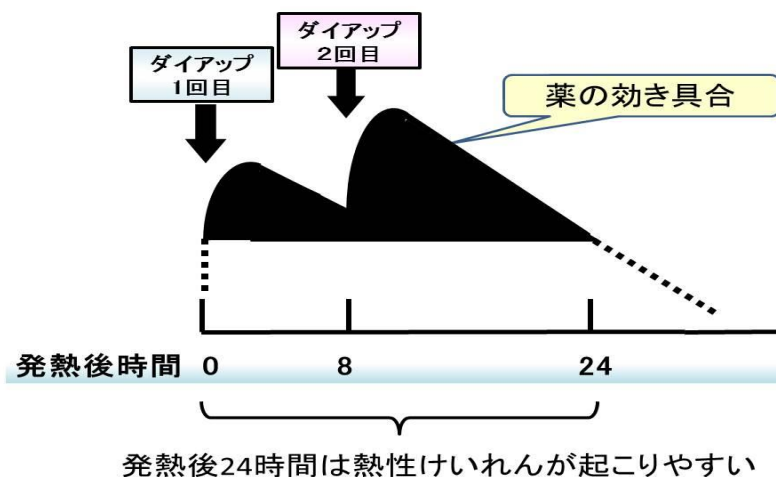
★2回目⇒1回目の8時間後に使用します。

*8時間後に解熱していても、原則的には2回目を使用して下さい

★3回目以降は熱が続いていても使用しないで下さい!

●Q4：どのような効果がありますか？

ダイアップ坐薬を使うと、使わなかった場合に較べてけいれんの発生率が70%以上減らすとされています。ダイアップ坐薬を上手に使えると熱性けいれんをかなり予防することはできますが、使っても熱性けいれんが起ることはあります。効果が現われるまでには15分以上かかるため、目の前で起きているけいれんを止める効果はあまり期待できません。



●Q5：副反応はありますか？

“目がトロンとする”，“眠くなる”，“ふらつく”，“転びやすくなる”，といった副反応は50%程度の子どもさんに現れます。逆に“ハイテンションになって興奮する”こともあります。1歳以上のお子様では、転倒，転落などに注意が必要です。ダイアップ坐薬を使用した翌日は解熱していても休園，休校して下さい。その他の副反応はとともまれです。

●Q6：何歳まで使えば良いのですか？

最後のけいれん発作から2年間，または4～5歳になるまで使うことが一般的ですが，過去のけいれん回数なども考慮して保護者様と相談して決めさせていただきます。ダイアップ坐薬を処方された際には，方針を確認するため約1年後に当科かかかりつけ医で相談して下さい。

●Q7：解熱剤の坐薬といっしょに使えますか？

解熱剤の坐薬は，いっしょに使うとダイアップ坐薬の効果が弱まるためダイアップ坐薬使用の前後30分以上あけて使用して下さい。内服の解熱剤は同時に服用しても大丈夫です。

●Q8：便といっしょに薬が出てしまった時はどうすれば良いですか？

便中に坐薬の形が確認される場合には，カットして予定量の半分を再度使用して下さい。それ以上は追加しないで下さい。

●Q9：どのように保管すれば良いですか？ いつまで使えますか？

30℃以上の高温になる場所は避けて下さい（常温保存でも冷蔵庫保存でも大丈夫です）。概ね1年間は使用できます。保管薬がなくなる前には忘れずに処方を受けて下さい。